

雑司が谷旧宣教師館だより

第56号

2015年9月18日

豊島区立雑司が谷旧宣教師館

〒171-0031 東京都豊島区雑司が谷 1-25-5 TEL/FAX 03-3985-4081

旧宣教師館イベント報告

雑司が谷旧宣教師館親子体験教室

「押し花でオリジナルの竹うちわをつくろう！」

2015年8月22日、雑司が谷旧宣教師館では、親子体験教室「押し花で竹うちわをつくろう！」を実施しました。

エアコンのない時代、人々はどのように涼を得ていたのでしょうか。その道具は？うちわは現在も大活躍ですが、ほとんどはプラスチックのものではないでしょうか。日本人の生活に、プラスチック製品が入ってきたのは、戦後のこと。それまでは、竹のうちわを使っていました。



今夏は、旧宣教師館に咲いたアサガオを押し花にして、昔ながらの竹うちわ作りに挑戦しました。

まずは、アサガオ棚から、好きな花を選びます。選んだアサガオは、アイロンを使って押し花にします。押し花は破れやすいので、慎重にはがします。



次に、竹の骨組みに和紙を貼り合わせて、うちわを作ります。そこに、押し花や模様をデザインします。最後に、縁（ふち）の始末をしたら、昔ながらの竹うちわの完成です。

戦後の復興とともに、日本人の暮らしは大きく変わりました。生活が便利になる一方で、失われた文化も少なくありません。少し昔の夏の風景を想像しながら、現代っ子たちは、思い思いにうちわを作りました。



うまくできるかな...?
慎重に慎重に。

完成です。
かわいらしくできました！

雑司が谷旧宣教師館休館のお知らせ

雑司が谷旧宣教師館は、5年にいちどの大規模修繕のため、2015年10月5日から2016年3月31日まで休館いたします。今回の大規模修繕では、外壁のペンキの塗りなおしなどのほかにも、展示のリニューアルも行います。今後とも、地域の学びの場として活動してまいります。休館中、なにかとご不便をおかけいたしますが、ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

マッケーレブとその時代 ～アメリカ人宣教師を見つめた文化財～

明治25年(1892)、キリスト教伝道のため、アメリカ人宣教師ジョン・ムーディ・マッケーレブが日本にやってきました。

江戸時代以来、禁教とされたキリスト教は、明治にいたっても日本人への直接の伝道は許可されていませんでした。しかし、明治6年(1873)に切支丹禁制の高札が撤去され、同22年(1889)、大日本帝国憲法28条(「日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス」)によって、「安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ」という国家の制約のもとにはありましたが、キリスト教が公認されます。マッケーレブの来日は、その3年後のことでした。

来日当初、築地居留区で生活したマッケーレブは、神田や小石川などの地域を伝道した後、明治40年(1907)に、この雑司が谷を拠点に、キリスト教の伝道活動を行いました。現在、都指定文化財となっている近代木造洋風建築「雑司が谷旧宣教師館」は、このとき、マッケーレブの住宅兼教会事務所として建築されたものです。以来、約110年。旧宣教師館は、マッケーレブの暮らしと地域の歴史を見つめ続けてきました。

旧宣教師館は、マッケーレブの生まれた19世紀後半のアメリカ木造建築住宅の特色を色濃く残しており、概観は、窓や玄関ポーチの意匠などにカーペンター・ゴシックの装飾が施されています。また、一步邸内に足を踏み入れれば、玄関と階段の空間配置、紐(ひも)と錘(おもり)を使って作られた上げ下げ窓のほか、七宝で飾られた暖炉と部屋の配置、竹の天井など、日本の文化を取り入れた意匠も目を惹きます。

ですが、なかには、目に付かないところで歴史を伝えるものもあるのです。

それは、錠前です。錠前は、扉にはめ込まれ、目に付くものは鍵穴とドアノブのみ。ですが、マッケーレブの家と生活を守りつづけた立役者です。

錠前は、消耗品であると同時に、使用頻度が激しいこと、また、防犯上の理由などから、時代を経るにつれ、交換されていきます。伝統技法研究会の角野茂勝さんのお話によれば、歴史的建造物などのドアに残されている古そうな錠前ですら、建築当初からの錠前であることは、めずらしいといえます。

旧宣教師館に残された錠前は、レバータンブラー錠とピンタンブラー錠です。レバータンブラー錠は、錠の内部に仕込まれた板状のタンブラー(障害)を、鍵の先端で跳ね上げて門(かんぬき)を出入りさせて解錠・施錠するものです。タンブラーが槌子=レバーのように動くことから、レバータンブラーと呼ばれます。18世紀にその原型が発明され、現在でも南京錠などに使用されています。これは、鍵穴が前方後円墳のような形をして

おり、棒鍵と呼ばれる鍵が使用されます。旧宣教師館では、居間と廊下境のドアに使用されており、その中に「Y&T」と刻まれていることから、エールアンドタウン製造会社（現在はエール社）の錠前と考えられます。

次に、ピンタンブラー錠ですが、これは、1865年、アメリカのエール親子によって基本形が発明されました。エール氏の二世は、後に実業家のタウン氏とエールアンドタウン製造会社を設立しています。ピンタンブラー錠は、上ピンと下ピンがバネでシリンダーに押し付けられており、鍵を差し込むことで上下ピンの境目とシリンダーの境目が一致し、シリンダーが回転することで解錠・施錠されます。これは、現在使用されている一般的な錠前と同じ仕組みです。旧宣教師館のピンタンブラー錠は、玄関に使われており、堀商店製のものです。そして、このピンタンブラー錠は、戦後取り替えられたものと考えられています。

ところで、鍵がいつ取り替えられたのか、なぜわかるのでしょうか。そのヒントは、錠前を取り付ける螺子（ねじ）にあるのです。

一般的に、螺子には大きく分けてプラスとマイナスの2種類があります。日本に、マイナス螺子が入ってきたのは、16世紀半ば、種子島に伝来した火縄銃に使用されていたといわれます。対して、プラス螺子は、昭和10年（1935）、アメリカのフィリップスドライブ社が製造して特許をとったことに始まります。当時、日本では、マイナス螺子が主流で、プラス螺子が使用されるのは戦後になってからのことといわれています。旧宣教師館玄関に取り付けられた錠前は、プラス螺子ですから、戦後に付け替えられたものと考えられるのです。

昭和16年、アジア太平洋戦争による日米関係の悪化から、マッケレーブはアメリカへ帰国します。そしてその後、日本へ戻ることはありませんでした。やがてその住宅は日本人の手に渡り、約40年の時を過ごします。旧宣教師館に残された様々な意匠は、マッケレーブとともに、その後の時代を生きた人々の息吹を感じさせてくれるのです。

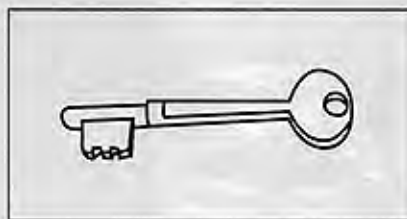
（小山貴子）



プラス螺子のドアノブ



マイナス螺子のドアノブ



レバータンブラー錠の棒鍵です。
現在では、レバータンブラー錠を使用することは少なくなりました。

参考文献

角野茂勝「歴史的建物の建築金物について4〈錠前〉」
（『協』伝統技法研究会会報』25号）
『錠前ハンドブック』（総合科学出版、1972年）

旧宣教師館休館前のイベント情報

オータムコンサート

～ウェスタンピアノとフルートの協演～

旧宣教師館のかつての食堂部分には、ウェスタンピアノという古いピアノがあります。このウェスタンピアノは、大正10年（1921）前後に、ピアノ職人の西川安蔵によって製作されたもので、国内で現存が確認できるウェスタンピアノは、旧宣教師館のピアノを含めてわずか2台といわれています。旧宣教師館の休館を前に、このウェスタンピアノとフルートのコンサートを開催します。秋のひととき、およそ100年前の音色を奏でるピアノとフルートとの協演をお楽しみください。

日時：2015年10月4日（日）14:00～15:30

演奏者：宇根 美沙恵さん（ピアノ）／前田 美保さん（フルート）

♪参加費は無料です。直接、当館へお越しください♪



宇根 美沙恵（うね みさえ）/ピアノ

東京藝術大学ピアノ科卒業。その後、同大学楽理科卒業。PTNAピアノオーディション、日本ピアノ教育連盟オーディション、かながわ音楽コンクール等で入賞、入選。第16回JILA音楽コンクール室内楽部門第1位。リサイタルやNHK-FMにて様々な演奏家と共演。最近では主に木管楽器のコンクールやセミナー、音楽祭の公式伴奏者や、オーケストラの鍵盤奏者を務めるなど多方面にて活動している。現在、東京藝術大学管打楽科非常勤講師（伴奏助手）。

♪♪演目♪♪

ドビュッシー/月の光、アラベスク
プーランク/フルートソナタ など



前田 美保（まえだ みほ）/フルート

高松第一高等学校音楽科、東京音楽大学を経て、同大学研究科を修了。高等学校在学中、全日本学生音楽コンクールにて奨励賞、翌年、第2位を受賞。全日本吹奏楽コンクール、全日本アンサンブルコンテストにて全国大会出場。大学在学中、フルートコンベンションコンクール ソロ部門にて入賞。現在、様々な場所で演奏活動を行い、後進の指導にもあたっている。

おばあちゃんのおはなし会

10月3日（土） 小川末明「ものぐさじじいの来世」
秋田雨雀「野の郡長さんーフランスの話からー」
（大正9年4月『赤い鳥』第4巻4号）

時間：14:00～14:30

場所：旧宣教師館児童図書コーナー

参加費・事前予約は必要ありません。直接会場へお越しください。

～2015年11月から2016年3月までの「おばあちゃんのおはなし会」は、場所が変わります！～

毎週第1土曜日、14:00～14:30に行っている、「おばあちゃんのおはなし会」。

旧宣教師館改修中は、**雑司が谷区民集会室（雑司が谷 1-22-5）**で行います。ぜひご参加ください！！

豊島区立郷土資料館 「秋の収蔵資料展〈池袋ヤミ市と戦後の復興〉」9月14日～11月29日

雑司が谷旧宣教師館の親館である豊島区立郷土資料館も、勤労福祉会館の改修工事とともって2015年12月から2017年9月（予定）まで休館します。ご理解ご協力をお願いいたします。